

四ホウ酸ナトリウム十水和物 $\text{Na}_2\text{B}_4\text{O}_7 \cdot 10\text{H}_2\text{O}$ [K 8866, 四ホウ酸ナトリウム十水和物, 特級]

四ホウ酸ナトリウム十水和物, pH 測定用 [K 8866, 四ホウ酸ナトリウム十水和物, pH 標準液用]

ライセート試液 ライセート試薬をエンドトキシン試験用水又は適当な緩衝液を用いて、穏やかにかき混ぜて溶かす。

ライセート試薬 本品はカブトガニ (*Limulus polyphemus* 又は *Tachypleus tridentatus*) の血球抽出成分から調製された凍結乾燥品である。本試薬には β -グルカンに反応する G 因子を除去、又は G 因子系の反応を抑制したものもある。

ライネット塩 ライネット塩一水和物 見よ。

ライネット塩一水和物 $\text{NH}_4[\text{Cr}(\text{NH}_3)_2(\text{SCN})_4] \cdot \text{H}_2\text{O}$ [K 8926, 特級]

ライネット塩試液 ライネット塩一水和物 0.5 g に水 20 mL を加えて 1 時間しばしば振り混ぜた後、ろ過する。48 時間以内に使用する。

ラウリル硫酸ナトリウム [医薬品各条, 第二部]

ラウロマクロゴール [医薬品各条, 第二部]

β -ラクトグロブリン 牛乳より製する。白色～淡黄色の粉末である。
窒素含量 14 % 以上 (乾燥物に対し、窒素定量法による)。

ラッカセイ油 [医薬品各条, 第二部]

ラニーニッケル, 触媒用 本品は灰黒色の粉末で、ニッケル 40 ~ 50 % 及びアルミニウム 50 ~ 60 % を含む合金である。

LAL 試液 ライセート試液 見よ。

LAL 試薬 ライセート試薬 見よ。

リオチロニンナトリウム $\text{C}_{13}\text{H}_{11}\text{I}_3\text{NNaO}_4$ [医薬品各条]

リオチロニンナトリウム, 薄層クロマトグラフ用 [医薬品各条, 「リオチロニンナトリウム」ただし、「リオチロニンナトリウム錠」の確認試験 (1) を準用し、試験を行うとき, R_f 値約 0.3 ~ 0.4 の主スポット以外のスポットを認めないもの]

リドカイン, 定量用 $\text{C}_{14}\text{H}_{22}\text{N}_2\text{O}$ [医薬品各条, 「リドカイン」]

リトコール酸, 薄層クロマトグラフ用 $\text{C}_{24}\text{H}_{40}\text{O}_3$ 白色の結晶又は結晶性の粉末である。エタノール (95), 酢酸 (100) 又はアセトンにやや溶けやすく、クロロホルムに溶けにくく、水にほとんど溶けない。融点: 約 186 °C
純度試験 類縁物質 本品 0.025 g をとり、クロロホルム/エタノール (95) 混液 (9 : 1) に溶かし、正確に 25 mL とする。この液 1.0 mL にクロロホルム・エタノール (95) 混液 (9 : 1) を加えて正確に 100 mL とする。この液 10 μL につき、「ウルソデオキシコール酸」の純度試験 (7) を準用し、試験を行うとき、 R_f 値約 0.7 の主スポット以外のスポットを認めない。

含量 98.0 %. 定量法 本品を 80 °C で 4 時間減圧乾燥 (酸化リン (V)) し、その約 0.5 g を精密に量り、中和エタノール 40 mL 及び水 20 mL を加えて溶かす。次にフェノールフタレイン試液 2 滴を加え、0.1 mol/L 水酸化ナトリウム液で滴定し、終点近くで新たに煮沸して冷却した水 100 mL を加えて更に滴定する。

0.1 mol/L 水酸化ナトリウム液 1 mL = 37.657 mg $\text{C}_{24}\text{H}_{40}\text{O}_3$

リトマス紙、青色 [K 9071, リトマス紙、青色リトマス紙]
リトマス紙、赤色 [K 9071, リトマス紙、赤色リトマス紙]
リボフラビン $\text{C}_{17}\text{H}_{20}\text{N}_4\text{O}_6$ [医薬品各条]
リモネン $\text{C}_{10}\text{H}_{16}$ 無色透明の液で特異な芳香があり、味はやや苦い。
屈折率 n_{D}^{20} : 1.472 ~ 1.474
比重 d_{40}^{20} : 0.841 ~ 0.846
融点 176 ~ 177 °C
純度試験 類縁物質 本品 0.1 g をヘキサン 25 mL に溶かし、試料溶液とする。この液 2 μL につき、次の条件でガスクロマトグラフ法により試験を行う。各々のピーク面積を自動積分法により測定し、面積百分率法によりリモネンの量を求めるとき、97.0 % 以上である。

操作条件
検出感度及び面積測定範囲以外の操作条件は、「ユーカリ油」の定量法の操作条件を準用する。

検出感度：試料溶液 1 mL を量り、ヘキサンを加えて 100 mL とする。この液 2 μL から得たリモネンのピーク高さがフルスケールの 40 ~ 60 % となるように調整する。

面積測定範囲：溶媒のピークの後からリモネンの保持時間の約 3 倍の範囲

硫化アンモニウム試液 $(\text{NH}_4)_2\text{S}$ [K 8943, 硫化アンモニウム溶液 (無色), 1 級] 遮光した小瓶に全満して保存する。

硫化水素 H_2S 無色の有毒ガスで空気より重く、水に溶ける。硫化鉄 (II) に希硫酸又は希塩酸を作用させて製する。希酸を作用させると、硫化水素を発生するものであれば、硫化鉄 (II) 以外の硫化物を代用してもよい。

硫化水素試液 硫化水素の飽和溶液である。冷水に硫化水素を通じて製する。

貯法 遮光した瓶にほとんど全満して冷暗所に保存する。

硫化鉄 硫化鉄 (II) 見よ。

硫化鉄 (II) FeS [K 8948, 硫化水素発生用]

硫化ナトリウム 硫化ナトリウム九水和物 見よ。

硫化ナトリウム九水和物 $\text{Na}_2\text{S} \cdot 9\text{H}_2\text{O}$ [K 8949, 特級]

硫化ナトリウム試液 硫化ナトリウム九水和物 5 g を水 10 mL 及びグリセリン 30 mL の混液に溶かす。又は水酸化ナトリウム 5 g を水 30 mL 及びグリセリン 90 mL の混液に溶かし、その半容量に冷時硫化水素を飽和し、それに残りの半容量を混和する。遮光した瓶にほとんど全満して保存する。調製後 3 箇月以内に用いる。

硫酸 H_2SO_4 [K 8951, 特級]

硫酸、希 硫酸 5.7 mL を水 10 mL に注意しながら加え、冷後、水を加えて 100 mL とする (10 %)。

硫酸水素テトラブチルアンモニウム $\text{C}_{16}\text{H}_{37}\text{NO}_4\text{S}$ 白色の結晶性の粉末である。

含量 98.0 % 以上。定量法 本品約 0.7 g を精密に量り、新たに煮沸し冷却した水 100 mL に溶かし、0.1 mol/L 水酸化ナトリウム液で滴定する (指示薬: ブロモクレゾールグリーン・メチルレッド試液 3 滴)。

0.1 mol/L 水酸化ナトリウム液 = 33.953 mg $\text{C}_{16}\text{H}_{37}\text{NO}_4\text{S}$

に溶かし、硫酸 200 mL 及び水を加えて 1000 mL とする。

硫酸銅 硫酸銅(II) 五水和物 を見よ。

硫酸銅 無水 硫酸銅(II) を見よ。

硫酸銅(II) CuSO₄ [K 8984, 1 級]

硫酸銅(II) 五水和物 CuSO₄·5H₂O [K 8983, 特級]

硫酸銅試液 硫酸銅(II) 試液 を見よ。

硫酸銅(II) 試液 硫酸銅(II) 五水和物 12.5 g を水に溶かし、100 mL とする (0.5 mol/L)。

硫酸銅試液、アルカリ性 硫酸銅(II) 試液、アルカリ性 を見よ。

硫酸銅(II) 試液、アルカリ性 炭酸水素カリウム 150 g、炭酸カリウム 101.4 g 及び硫酸銅(II) 五水和物 6.93 g を水に溶かし、1000 mL とする。

硫酸銅・ピリジン試液 硫酸銅(II)・ピリジン試液 を見よ。

硫酸銅(II)・ピリジン試液 硫酸銅(II) 五水和物 4 g を水 90 mL に溶かし、ピリジン 30 mL を加える。用時製する。

硫酸ナトリウム 硫酸ナトリウム十水和物 を見よ。

硫酸ナトリウム、無水 Na₂SO₄ [K 8987, 硫酸ナトリウム, 特級]

硫酸ナトリウム十水和物 Na₂SO₄·10H₂O [K 8986, 特級]

硫酸ニッケル(II) アンモニウム六水和物 NiSO₄(NH₄)₂SO₄·6H₂O [K 8990, 特級]

硫酸ニッケルアンモニウム 硫酸ニッケル(II) アンモニウム 六水和物 を見よ。

硫酸バメタン (C₁₂H₁₉NO₂)₂·H₂SO₄ [医薬品各条]

硫酸ヒドラジニウム N₂H₆SO₄ [K 8992, 特級]

硫酸ヒドラジニウム試液 硫酸ヒドラジニウム 1.0 g を水に溶かして 100 mL とする。

硫酸ヒドラジン 硫酸ヒドラジニウム を見よ。

硫酸ビンクリスチン C₄₆H₅₆N₄O₁₀·H₂SO₄ [医薬品各条]

硫酸ビンプラスチン C₄₆H₅₈N₄O₉·H₂SO₄ [医薬品各条]

硫酸・ヘキサン・メタノール試液 メタノール/ヘキサン混液 (3:1) 230 mL に硫酸 2 mL を注意して加える。

硫酸ベタニジン、定量用 (C₁₀H₁₅N₃)₂·H₂SO₄ [医薬品各条, 「硫酸ベタニジン」ただし、定量するとき、換算した乾燥物に対し、硫酸ベタニジン [(C₁₀H₁₅N₃)₂·H₂SO₄] 99.0 % 以上を含むもの]

硫酸マグネシウム 硫酸マグネシウム七水和物 を見よ。

硫酸マグネシウム試液 硫酸マグネシウム七水和物 12 g を水に溶かし、100 mL とする (0.5 mol/L)。

硫酸マグネシウム七水和物 MgSO₄·7H₂O [K 8995, 特級]

硫酸・メタノール試液 メタノール 40 mL に硫酸 60 mL を注意しながら加える。

硫酸・メタノール試液、0.05 mol/L 硫酸 3 mL をメタノール 1000 mL にかき混ぜながら徐々に加えた後、放冷する。

硫酸 4-メチルアミノフェノール (HOCH₂H₄NHCH₃)₂·H₂SO₄ [K 8999:1961, 特級]

硫酸 p-メチルアミノフェノール 硫酸 4-メチルアミノフェノール を見よ。

硫酸 4-メチルアミノフェノール試液 硫酸 4-メチルアミノフェノール 0.35 g 及び亜硫酸水素ナトリウム 20 g を水に溶かし、100 mL とする。用時製する。

硫酸 p-メチルアミノフェノール試液 を見よ。

硫酸四アンモニウムセリウム(IV) 試液 硫酸四アンモニウムセリウム(IV) 二水和物 6.8 g を薄めた硫酸 (3 → 100) に溶かし、100 mL とする。

硫酸四アンモニウムセリウム(IV) 二水和物 Ce(SO₄)₂·2(NH₄)₂SO₄·2H₂O [K 8977, 特級]

硫酸四アンモニウムセリウム(IV)・リン酸試液 硫酸四アンモニウムセリウム(IV) 二水和物 0.1 g を薄めたリン酸 (4 → 5) に溶かし、100 mL とする。

硫酸リチウム 硫酸リチウム一水和物 を見よ。

硫酸リチウム一水和物 Li₂SO₄·H₂O [K 8994, 特級]

硫酸・リン酸二水素ナトリウム試液 硫酸 6.8 mL を水 500 mL に加え、これにリン酸二水素ナトリウム二水和物 50 g を溶かし、水を加えて 1000 mL とする。

流動パラフィン パラフィン、流動 を見よ。

リン酸 H₃PO₄ [K 9005, りん酸, 特級]

リン酸一水素カリウム リン酸水素二カリウム を見よ。

リン酸一水素カリウム・クエン酸緩衝液, pH 5.3 リン酸水素二カリウム・クエン酸緩衝液, pH 5.3 を見よ。

リン酸一水素カリウム試液, 1 mol/L, 緩衝液用 リン酸水素二カリウム試液, 1 mol/L, 緩衝液用 を見よ。

リン酸一水素ナトリウム リン酸水素二ナトリウム十二水和物 を見よ。

リン酸一水素ナトリウム、無水 リン酸水素二ナトリウム、無水 を見よ。

リン酸一水素ナトリウム、無水, pH 測定用 リン酸水素二ナトリウム, pH 測定用 を見よ。

リン酸一水素ナトリウム・クエン酸塩緩衝液, pH 5.4 リン酸水素二ナトリウム・クエン酸塩緩衝液, pH 5.4 を見よ。

リン酸一水素ナトリウム・クエン酸緩衝液, pH 4.5 リン酸水素二ナトリウム・クエン酸緩衝液, pH 4.5 を見よ。

リン酸一水素ナトリウム・クエン酸緩衝液, pH 6.0 リン酸水素二ナトリウム・クエン酸緩衝液, pH 6.0 を見よ。

リン酸一水素ナトリウム試液 リン酸水素二ナトリウム試液 を見よ。

リン酸一水素ナトリウム試液, 0.05 mol/L リン酸水素二ナトリウム試液, 0.05 mol/L を見よ。

リン酸一水素ナトリウム試液, 0.5 mol/L リン酸水素二ナトリウム試液, 0.5 mol/L を見よ。

リン酸塩緩衝液, 0.02 mol/L, pH 3.0 リン酸二水素ナトリウム二水和物 3.1 g を水 1000 mL に溶かし、薄めたリン酸 (1 → 10) を用いて pH を 3.0 に調整する。

リン酸塩緩衝液, 0.02 mol/L, pH 3.5 リン酸二水素ナトリウム二水和物 3.1 g を水 1000 mL に溶かし、薄めたリン酸 (1 → 10) を用いて pH を 3.5 にする。

リン酸塩緩衝液, 0.02 mol/L, pH 8.0 0.2 mol/L リン酸二水素カリウム試液 50 mL に水 300 mL を加え、水酸化ナトリウム試液で pH を 8.0 に調整し、水を加えて 500 mL とする。

リン酸塩緩衝液, 0.05 mol/L, pH 6.0 緩衝液用 0.2 mol/L

リン酸二水素カリウム試液 50 mL に 0.2 mol/L 水酸化ナトリウム試液 5.70 mL 及び水を加えて 200 mL とする。

リン酸塩緩衝液, 0.05 mol/L, pH 7.0 リン酸二水素カリウム 4.83 g 及びリン酸二水素カリウム 3.02 g を水 1000 mL に溶かし、リン酸又は水酸化カリウム試液を加えて pH 7.0 に調整する。

リン酸塩緩衝液, 0.1 mol/L, pH 4.5 リン酸二水素カリウム 13.61 g を水 750 mL に溶かし、水酸化カリウム試液を加えて pH を 4.5 に調整した後、水を加えて 1000 mL とする。

リン酸塩緩衝液, 0.1 mol/L, pH 7.0 リン酸水素二ナトリウム十二水和物 17.9 g を水に溶かし、500 mL とした液に、リン酸二水素カリウム 6.8 g を水に溶かし、500 mL とした液を pH 7.0 になるまで加える（容量比約 2 : 1）。

リン酸塩緩衝液, 0.1 mol/L, pH 8.0 無水リン酸水素二ナトリウム 13.2 g 及びリン酸二水素カリウム 0.91 g を水約 750 mL に溶かし、リン酸を加えて pH を 8.0 に調整した後、水を加えて 1000 mL とする。

リン酸塩緩衝液, 0.1 mol/L, pH 8.0, セフチブテン用 リン酸水素二カリウム 16.73 g 及びリン酸二水素カリウム 0.523 g に水約 750 mL を加えて溶かし、リン酸を加えて pH を 8.0 に調整した後、水を加えて 1000 mL とする。

リン酸塩緩衝液, 0.2 mol/L, pH 10.5 リン酸水素二カリウム 34.8 g を水 750 mL に溶かし、8 mol/L 水酸化ナトリウム試液を加えて pH を 10.5 に調整した後、水を加えて 1000 mL とする。

リン酸塩緩衝液, pH 6.0 リン酸二水素カリウム 8.63 g 及び無水リン酸水素二ナトリウム 1.37 g を水 750 mL に溶かし、水酸化ナトリウム試液又は薄めたリン酸（1 → 15）を加えて pH を 6.0 に調整した後、水を加えて 1000 mL にする。

リン酸塩緩衝液, pH 6.5 緩衝液用 0.2 mol/L リン酸二水素カリウム試液 50 mL に 0.2 mol/L 水酸化ナトリウム液 15.20 mL 及び水を加えて 200 mL とする。

リン酸塩緩衝液, pH 6.8 リン酸二水素カリウム 3.40 g 及び無水リン酸水素二ナトリウム 3.55 g を水に溶かし、1000 mL とする。

リン酸塩緩衝液, pH 7.0 緩衝液用 0.2 mol/L リン酸二水素カリウム試液 50 mL に 0.2 mol/L 水酸化ナトリウム液 29.54 mL 及び水を加えて 200 mL とする。

リン酸塩緩衝液, pH 7.2 緩衝液用 0.2 mol/L リン酸二水素カリウム試液 50 mL に 0.2 mol/L 水酸化ナトリウム液 34.7 mL 及び水を加えて 200 mL とする。

リン酸塩緩衝液, pH 7.4 緩衝液用 0.2 mol/L リン酸二水素カリウム試液 50 mL に 0.2 mol/L 水酸化ナトリウム液 39.50 mL 及び水を加えて 200 mL とする。

リン酸塩緩衝液, pH 8.0 緩衝液用 0.2 mol/L リン酸二水素カリウム試液 50 mL に 0.2 mol/L 水酸化ナトリウム液 46.1 mL 及び水を加えて 200 mL とする。

リン酸塩緩衝液, pH 12 無水リン酸水素二ナトリウム 5.44 g をとり、水酸化ナトリウム試液 36.5 mL を加えた後、水約 40 mL を加えてよく振り混ぜて溶かし、水を加えて 100 mL とする。

リン酸塩緩衝液, パンクレアチン用 無水リン酸水素二ナトリ

ウム 3.3 g、リン酸二水素カリウム 1.4 g 及び塩化ナトリウム 0.33 g を水に溶かし、100 mL とする。

リン酸塩緩衝液, マイクロプレート洗浄用 リン酸二水素ナトリウム二水和物 0.62 g、リン酸水素二ナトリウム十二水和物 9.48 g、塩化ナトリウム 52.6 g、ポリソルベート 80 3.0 g 及びポリオキシエチレン（40）オクチルフェニルエーテル 1.8 g を水に溶かし、600 mL とする。用時、この液 1 容に水 9 容を加える。

リン酸コデイン, 定量用 $C_{18}H_{21}NO_3 \cdot H_3PO_4 \cdot \frac{1}{2}H_2O$ [医薬品各条、「リン酸コデイン」ただし、換算した脱水物に対し、リン酸コデイン ($C_{18}H_{21}NO_3 \cdot H_3PO_4$) 99.0 % 以上を含むもの]

リン酸・酢酸・ホウ酸緩衝液, pH 2.0 リン酸 6.77 mL、酢酸（100）5.72 mL 及びホウ酸 6.18 g を水に溶かし、1000 mL とする。この液に 0.5 mol/L 水酸化ナトリウム試液を加えて pH 2.0 に調整する。

リン酸三ナトリウム十二水和物 $Na_3PO_4 \cdot 12H_2O$ [K 9012, りん酸三ナトリウム・12 水、特級]

リン酸ジヒドロコデイン, 定量用 $C_{18}H_{23}NO_3 \cdot H_3PO_4$ [医薬品各条、「リン酸ジヒドロコデイン」ただし、換算した乾燥物に対し、リン酸ジヒドロコデイン ($C_{18}H_{23}NO_3 \cdot H_3PO_4$) 99.0 % 以上を含むもの]

リン酸水素アンモニウムナトリウム リン酸水素アンモニウムナトリウム四水和物を見よ。

リン酸水素アンモニウムナトリウム四水和物 $NaNH_4HPO_4 \cdot 4H_2O$ [K 9013, りん酸水素アンモニウムナトリウム四水和物、特級]

リン酸水素二アンモニウム $(NH_4)_2HPO_4$ [K 9016, りん酸水素二アンモニウム、特級]

リン酸水素二カリウム K_2HPO_4 [K 9017, りん酸水素二カリウム、特級]

リン酸水素二カリウム・クエン酸緩衝液, pH 5.3 緩衝液用 1 mol/L リン酸水素二カリウム試液 100 mL に緩衝液用 1 mol/L クエン酸試液 38 mL 及び水を加えて 200 mL とする。

リン酸水素二カリウム試液, 1 mol/L, 緩衝液用 リン酸水素二カリウム 174.18 g を水に溶かし、1000 mL とする。

リン酸水素二ナトリウム, pH 測定用 Na_2HPO_4 [K 9020, りん酸水素二ナトリウム、pH 標準液用]

リン酸水素二ナトリウム, 無水 Na_2HPO_4 [K 9020, りん酸水素二ナトリウム、特級]

リン酸水素二ナトリウム・クエン酸塩緩衝液, pH 3.0 リン酸水素二ナトリウム十二水和物 35.8 g を水に溶かし、500 mL とする。この液に、クエン酸一水和物 42.0 g を水に溶かして 2000 mL とした液を、pH 3.0 になるまで加える。

リン酸水素二ナトリウム・クエン酸緩衝液, pH 4.5 クエン酸一水和物 21.02 g を水に溶かし、1000 mL とする。この液に、リン酸水素二ナトリウム十二水和物 35.82 g を水に溶かして 1000 mL とした液を pH 4.5 になるまで加える。

リン酸水素二ナトリウム・クエン酸緩衝液, pH 5.4 クエン酸一水和物 1.05 g 及びリン酸水素二ナトリウム十二水和物 2.92 g を水 200 mL に溶かし、必要ならばリン酸又は水酸化ナトリウム試液を加えて pH 5.4 に調整する。

含量 98.0 % 以上。含量測定法 本品をデシケーター(シリカゲル)で 24 時間乾燥し、その約 0.01 g を精密に量り、メタノールを加えて溶かし、正確に 10 mL とし、試料溶液とする。この液 20 μ L につき、次の条件で液体クロマトグラフ法により試験を行う。各々のピーク面積を自動積分法により測定し、面積百分率法によりレジブフォゲニンの量を求める。

操作条件

- 検出器：紫外吸光度計（測定波長：300 nm）
- カラム：内径 4 ~ 6 mm, 長さ 15 ~ 30 cm のステンレス管に 5 ~ 10 μ m の液体クロマトグラフ用オクタデシルシリル化シリカゲルを充てんする。
- カラム温度：40 °C 付近の一定温度
- 移動相：水/アセトニトリル混液 (1 : 1)
- 流量：レジブフォゲニンの保持時間が約 9 分になるよう調整する。
- カラムの選定：成分含量測定用ブファリン、成分含量測定用シノブファギン及び成分含量測定用レジブフォゲニン 0.01 g ずつをメタノールに溶かして 200 mL とする。この液 20 μ L につき、上記の条件で操作するとき、ブファリン、シノブファギン、レジブフォゲニンの順に溶出し、それぞれのピークが完全に分離するものを用いる。
- 検出感度：試料溶液 1 mL を正確に量り、メタノールを加えて正確に 100 mL とし、標準溶液 (1) とする。この溶液 1 mL を正確に量り、メタノールを加えて正確に 20 mL とし、標準溶液 (2) とする。標準溶液 (2) 20 μ L から得たレジブフォゲニンのピーク面積が自動積分法により測定されるように調整する。また、標準溶液 (1) 20 μ L から得たレジブフォゲニンのピーク高さがフルスケールの 20 % 前後となるように調整する。
- 面積測定範囲：溶媒のピークの後からレジブフォゲニンの保持時間の約 2 倍の範囲
- レソルシノール $C_6H_4(OH)_2$ [K 9032, 特級]
- レソルシノール試液 レソルシノール 0.1 g を塩酸 10 mL に溶かす、用時製する。
- レソルシノール・硫酸試液 レソルシノール 0.1 g を薄めた硫酸 (1 → 10) 10 mL に溶かす。
- レゾルシン レソルシノール 見よ。
- レゾルシン試液 レソルシノール試液 見よ。
- レゾルシン硫酸試液 レソルシノール・硫酸試液 見よ。
- レボチロキシンナトリウム $C_{15}H_{11}I_4NNaO_4 \cdot nH_2O$ [医薬品各条]
- レボチロキシンナトリウム、薄層クロマトグラフ用 [医薬品各条、「レボチロキシンナトリウム」ただし、「レボチロキシンナトリウム」の純度試験 (3) を準用し、試験を行うとき、 R_f 値約 0.26 の主スポット以外のスポットを認めないもの]
- L-ロイシン $C_6H_{13}NO_2$ [医薬品各条]
- ローズベンガル 一般試験法の生薬の微生物限度試験法 見よ。
- ローズベンガル試液 一般試験法の生薬の微生物限度試験法 見よ。

ロック・リングル試液

塩化ナトリウム	9.0 g
塩化カリウム	0.42 g
塩化カルシウム二水和物	0.24 g
塩化マグネシウム六水和物	0.2 g
炭酸水素ナトリウム	0.5 g
ブドウ糖	0.5 g
硬質フラスコで新たに蒸留した水	適量
全量	1000 mL

用時製する。ただし、ブドウ糖、炭酸水素ナトリウム以外の成分は濃厚な原液として冷所に保存し、用時薄めて用いてもよい。

ワセリン [医薬品各条、第二部「黄色ワセリン」又は「白色ワセリン」]

ワルファリンカリウム、定量用 [医薬品各条、「ワルファリンカリウム」ただし、乾燥したものを定量するとき、ワルファリンカリウム ($C_{19}H_{15}KO_4$) 99.0 % 以上を含むもの]

(3) 容量分析用標準液

容量分析用標準液には規定のモル濃度に調製された液を用いる。それぞれの標準液につき規定された物質 1 モルが 1000 mL 中に正確に含まれるように調製した溶液が 1 モル濃度溶液であり、1 mol/L で表す。

また必要に応じて、それらを一定の割合に薄めた液を用いる。例えば 1 mol/L 溶液を 10 倍容量に薄めたものは 0.1 mol/L 溶液である。

容量分析用標準液は、別に規定するもののほか、無色又は遮光した共栓瓶に入れ、保存する。

調製及び標定

容量分析用標準液は、次のいずれかの方法によって調製し、規定された濃度 n (mol/L) からのずれの度合いは、ファクター f により表す。日本薬局方では、通例、ファクター f が 0.970 ~ 1.030 の範囲にあるように調製する。ファクターを決定する操作を標定といいう。

(1) 純物質約 1 モルあるいはその倍数又は分数に相当する量を精密に量り、規定の溶媒に溶かして正確に 1000 mL とし、規定の濃度 n (mol/L) に近似する濃度の標準液を調製する。この場合、秤量した純物質の質量 (g) をその物質 1 モルの質量 (g) で除し、更に規定されたモル濃度を表す数値 n で除した値をその標準液のファクター f とする。もし、純物質が得られない場合は、純度が正確にわかっている純度の高い物質を用いて差し支えない。

(2) 純物質又は純度が正確にわかっている純度の高い物質が得られない場合、それぞれの標準液につき定められた物質約 1 モルあるいはその倍数又は分数に相当する量を量り、規定の溶媒に溶かして約 1000 mL とし、規定された濃度 n (mol/L) 付近の標準液を調製する。この標準液の正確な濃度を知るため、標定操作を行ってそれぞれの標準液のファクター f を定める。標定法には直接法と間接法がある。

a) 直接法

標準試薬などそれぞれの標準液について規定された物質の規定量を精密に量り、規定の溶媒に溶かした後、この液を調製し